

# 專 門 分 野

専門分野

I. 基礎視能矯正学

大項目	中項目	小項目
1. 視能矯正の枠組み	A. 視能矯正の理念	a. 理念と目的
		b. 視能障害の捉え方
		c. 保健医療福祉と視能矯正
	B. 視能矯正の歴史	
	C. 視能矯正の展開	a. 視能訓練士の業務
		b. 業務の管理と運営
		c. 科学的研究の意義と方法
		d. 根拠<エビデンス>に基づいた医療<EBM>としての視能矯正
	2. 両眼視機能と眼球運動	A. 外眼筋の作用と眼球運動
b. 単眼運動とその法則		
c. 両眼共同運動、両眼離反運動		
d. 共同筋と拮抗筋		
e. 外眼筋の神経支配		
B. 輻湊、開散と屈折、調節、AC/A比		a. 定義
		b. 発達
		c. 神経支配と中枢
		d. 種類
		e. 測定法
C. 両眼視		a. 定義と正常、異常
		b. 発達
		c. 成立の生理学的機序
		d. 網膜対応、両眼視野
		e. ホロプタとVieth-Müllerの円
		f. Panumの融像感覚圏
		g. 両眼視の成立条件
		h. 融像
		i. 静的立体視と動的立体視
		j. 視野闘争と抑制
		k. 固視ずれ
		l. 不同視と不等像視
		m. 複視
		n. 動体覚
D. 眼位		a. 定義
		b. 眼位の成り立ち
		c. 眼位の異常
		d. 屈折異常と眼位の関係
E. 眼球運動		a. 固視微動
		b. 共同運動
	c. 非共同運動	
	d. 位置覚と自己受容器	
	e. 筋の興奮収縮連関	
	f. 神経、筋の静止電位と活動電位	

大項目	中項目	小項目
3. 視能矯正と視覚生理学の基礎	A. 基本的知識	a. 生理光学
		b. 視覚生理学
		c. 視覚心理学
		d. 視覚の成り立ち
	B. 光覚	a. 網膜の光化学
		b. 明順応
		c. 暗順応
		d. 分光視感効率<比視感度>
	C. 色覚	a. 色の性質
		b. 色覚異常の種類と検査、遺伝
	D. 形態覚	a. 視力の概念
		b. 視力の分類
		c. 視力に影響する因子
		d. 網膜部位と視力
		e. コントラスト感度
	E. 視野	a. 視野の概念
		b. 動的測定と静的測定
		c. 視野に影響する因子
		d. 視野異常
	4. 視能矯正と生理光学の基礎	A. 基本的知識
b. レンズ		
c. プリズム		
d. フィルタ		
e. ミラー		
f. 結像と収差		
g. 波動光学		
B. 眼球光学		
		b. 模型眼とその名称
		c. 屈折、調節の光学
C. 屈折、調節の異常		a. 近視
		b. 遠視
		c. 乱視
		d. 老視
D. 屈折、調節の矯正		a. 眼鏡レンズ
		b. コンタクトレンズ
		c. 眼内レンズ
		d. 手術
		e. 薬物

専門分野

Ⅱ. 視能検査学

大項目	中項目	小項目	
1. 視能検査学概要	A. 基本的知識	a. 検査に対する知識	
		b. 検査法とそのプランニング	
	B. 医療面接の方法	a. 医療面接の進め方	
		b. 面接者の態度、接遇とマナー	
		c. 病歴のとり方	
	C. 診療録、医療記録	a. 診療録の記録と報告	
		b. 検査データの管理	
	D. 患者、障害者への検査	a. 心理的評価	
		b. 小児、高齢者、障害者への対応	
		c. 検査時の注意	
	2. 視能検査の心理的、社会的側面についての配慮	A. 視能訓練士の心理的、社会的側面	a. 検査への姿勢、意識
			b. 検査における責任
c. 視能訓練士の自己マネジメント			
B. 患者、障害者の心理的、社会的側面		a. 患者、障害者の心理	
		b. 病気、障害に対する意識と心理	
3. 視能検査	A. 視力検査	a. 遠見、近見視力検査	
		b. 単一、並列視力検査	
		c. 乳幼児視力検査<PL法を含む>	
		d. 両眼開放視力検査	
		e. コントラスト感度、干渉縞視力	
		f. LogMAR値	
		g. ETDRSチャート	
		h. グレア検査	
	B. 屈折検査	a. 他覚的屈折検査(波面収差解析を含む)	
		b. 自覚的屈折検査	
	C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査	a. 眼鏡検査	
		b. コンタクトレンズ検査	
		c. 瞳孔間距離計測検査	
		d. レンズメータ	
	D. 固視検査		
	E. 調節検査(AC/A比含む)		
	F. 視野検査	a. 動的、静的視野測定法(自動視野計を含む)	
		b. 中心暗点検査	
		c. 対座法	
	G. 色覚検査	a. 色覚検査表<仮性同色表>	
		b. アノマロスコープ	
		c. 色相配列検査	
	H. 中心フリッカ検査	a. 限界フリッカ値<CFF>	

大項目	中項目	小項目
	I. 両眼視機能検査(網膜対応検査を含む)	a. Bagolini線条検査
		b. 融像検査
		c. 大型弱視鏡検査
		d. 残像検査
		e. 赤フィルタ法
		f. 立体視検査(深径覚の検査を含む)
		g. 不等像視検査
		h. プリズム
		i. Worth4灯試験
		j. 偏光フィルタ
	J. 眼位検査	a. 角膜反射検査
		b. 遮閉試験
		c. Maddox杆
		d. プリズム
		e. 大型弱視鏡検査
	K. 眼球運動検査	a. 赤フィルタ法
		b. Hess赤緑試験
		c. 注視野
		d. 9方向眼位検査
		e. 牽引試験
	L. 輻湊検査	
	M. 外眼部検査	a. 眼球突出計
	N. 前眼部、透光体検査	a. 細隙灯顕微鏡検査
		b. フレア検査
O. 角膜検査	a. 角膜形状解析、角膜トポグラフィ	
	b. 角膜内皮細胞検査	
	c. 角膜知覚検査	
	d. 角膜厚計測	
P. 瞳孔検査	a. 対光反射	
	b. 近見反応	
	c. 瞳孔径測定	
Q. 眼底検査	a. 倒像、直像鏡検査	
	b. 前置レンズ検査	
R. 眼圧検査		
S. 隅角検査		
T. 涙液検査	a. Schirmer試験	
	b. 生体染色検査	
	c. 涙液層破壊時間<BUT>	

大項目	中項目	小項目
	U. 画像検査	a. 眼底撮影
		b. 広角眼底撮影
		c. 立体眼底撮影
		d. 蛍光眼底撮影(フルオレセイン、インドシアニンググリーン)
		e. 眼底自発蛍光撮影
		f. 光干渉断層計<OCT>
		g. 超音波検査
		h. 眼軸長検査
		i. エックス線撮影、CT、MRI
	V. 電気生理検査	a. 網膜電図<ERG>
		b. 眼球電図<EOG>
		c. 電気眼振図<ENG>
		d. 視覚誘発電位<VEP>
		e. 筋電図<EMG>
		f. 視運動性眼振<OKN>

大項目	中項目	小項目
1. 主要眼疾患の基本的知識	A. 眼瞼	a. 眼瞼下垂
		b. 睫毛、眼瞼内反
		c. 兔眼
		d. 麦粒腫
		e. 霰粒腫
		f. 睫毛乱生
	B. 涙器	a. 鼻涙管閉塞
		b. 涙嚢炎
		c. 涙液分泌減少症、眼乾燥症<ドライアイ>
	C. 結膜	a. 結膜炎
	D. 角膜	a. 角膜炎
		b. 角膜潰瘍
		c. 角膜変性(症)、角膜ジストロフィ
		d. 円錐角膜
	E. 強膜	a. 強膜炎
	F. 水晶体	a. 白内障
		b. 水晶体偏位、脱臼
	G. 緑内障	a. 原発開放隅角緑内障
		b. 正常眼圧緑内障
		c. 原発閉塞隅角緑内障
		d. 発達緑内障
	H. ぶどう膜	a. 虹彩毛様体炎
		b. ぶどう膜炎
	I. 網膜	a. 網膜静脈閉塞症
		b. 網膜動脈閉塞症
		c. 糖尿病網膜症
		d. 網膜色素変性
		e. 中心性漿液性脈絡網膜症
		f. 未熟(児)網膜症
		g. 加齢黄斑変性
		h. 網膜剥離
		i. 網膜芽細胞腫
		J. 硝子体
	K. 眼窩	a. 眼球突出
		b. 眼窩腫瘍
		c. 眼窩の外傷
	L. 視神経、視路	a. 視神経炎
		b. 視神経症
		c. うっ血乳頭
		d. 視神経交叉とその近傍の疾患
		e. 外側膝状体の疾患
		f. 視放線、後頭葉の疾患

大項目	中項目	小項目
	M. 瞳孔	a. 瞳孔不同
		b. 瞳孔緊張症
		c. 対光反射異常
		d. 近見反応
	N. 斜視	
	O. 弱視	
	P. 眼球運動	a. 核上性眼球運動障害
		b. 核、核下性眼球運動障害<眼運動神経麻痺>
		c. 神経筋接合部障害
		d. 筋原性障害
		e. 機械的障害
		f. 眼振
		g. その他の異常眼球運動
	Q. 色覚異常	
	R. 屈折異常	
S. 調節異常		
T. 眼外傷		
U. 身体表現性障害(解離性障害)		
V. 全身疾患と眼		
2. 失明予防	A. 予防と対策	a. 失明原因疾患
		b. 視覚発達時期別の予防対策
		c. 原因別予防対策

大項目	中項目	小項目	
1. 斜視の基本的知識	A. 定義		
	B. 病因論		
	C. 分類	a. 内斜視	
		b. 外斜視	
		c. 上下斜視	
		d. 回旋斜視	
		e. A-V型斜視	
		f. 交代性上斜位	
		g. 微小斜視	
		h. 麻痺性斜視	
i. 斜視特殊型			
2. 弱視の基本的知識	A. 定義		
	B. 病因論		
	C. 小児視能特性		
	D. 分類	a. 斜視弱視	
		b. 微小斜視弱視	
c. 不同視弱視			
d. 屈折異常弱視			
e. 形態覚遮断弱視			
3. ロービジョン	A. ロービジョンケア	a. 視覚補助具の選定と指導	
4. 視能訓練の臨床心理概要	A. 小児心理の特性	a. 小児期	
		b. 思春期、青年期	
	B. 病院における小児の心理	a. 不安の心理	
		b. 恐怖の心理	
	C. 患者と家族の心理	a. 障害の受容に至る過程	
		b. 視能障害児(者)の心理	
		c. 高齢者の心理	
		d. 家族の心理	
	D. 視能訓練と小児の心理	a. 訓練に入る前の心理とケア	
		b. 視能訓練と小児の心理	
5. 視能訓練の基本的知識と技術の概要	A. 基本的知識と技術の概要	a. 目的	
		b. 原理と原則	
		c. インフォームドコンセント	
		d. 種類	
		e. 目標と計画	
		f. 適応と予後	
		g. 方法の選択	
		h. 効果の判定	
		i. 記録と報告	
		j. 指導と管理	
		k. 注意点と禁忌	
		l. 基本用語	

大項目	中項目	小項目
	B. 屈折矯正	
	C. 弱視訓練	
	D. 両眼視訓練	
	E. 眼球運動訓練	
6. 視能矯正の知識と技術	A. 視血的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 量定と手術筋の選択
		c. 合併症
	B. 光学的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 眼鏡とコンタクトレンズ
		c. プリズム、フィルタ
	C. 薬理的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 副作用、合併症
	D. 視能訓練	
	7. 視能矯正と視能訓練	A. 機能的視能障害
B. 器質的視能障害		
C. 機械的視能障害		
D. 身体表現性障害(解離性障害)		
E. 眼振		
F. 斜視		
G. 斜位		